

SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール
岩手県立水沢高等学校
第7号 2015年8月24日 発行

SSH生徒研究発表会で生徒投票賞を受賞

毎年夏に文部科学省、科学技術振興機構が主催する、「スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」が8月5日～6日にインテックス大阪を会場として実施されました。今年は、全国のSSH校等の200を超えるポスター発表が行われ、本校の理数科3年の阿部洸、佐藤シャチ、菅原大資による「水飲み鳥の動力学解析」が、発表生徒が互いに投票し合う、生徒投票賞に輝きました。



水沢高が生徒投票賞 大阪でSSH研究発表会

【東京支社】文部科学省と科学技術振興機構（JST）は5、6両日、大阪市住之江区のインテックス大阪でスーパーサイエンスハイスクール（SSH）生徒研究発表会を開き、表彰校36校を決定した。県内からは水飲み鳥の動力学の解析」を発表した水沢高が生徒投票賞を受賞した。生徒投票賞は参加校

のポスター発表で、参加各校の生徒による投票で10校を決めた。発表会には、SSH指定校など203校、海外招へい校26校の生徒、教諭らが参加。最高賞の文部科学大臣表彰には熊本県の宇土中・高が輝いた。SSH事業は、同省が2002年度から将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数系教育を実施する高等学校等を指定し、支援している。

「岩手日報」(H27.8.7)

受賞した3名のコメント

- ◇ 自分たちの研究の成果が工夫を凝らしてわかりやすく説明することができ、いい経験になりました。(佐藤シャチ)
- ◇ 私たちの研究の成果が多くの人に評価されて良かったです。(菅原大資)
- ◇ 大学の先生や高校生からコメントを頂き、刺激を受けました。この経験を将来に活かしたいです。(阿部洸)

また、理数科2年の10名が「大阪研修」として、生徒研究発表会の見学と大阪市立自然史博物館での研修を行いました。

大阪市立自然史博物館では、菌類を研究している佐久間大輔主任学芸員から御自身の研究内容や大学時代の研究生活など、今に至るまでの様々な活動について具体的に話していただきました。そして、将来の進路を考える上でいいヒントをいただくことができました。さらに博物館における学芸員という研究職と、企業の研究職の違い等、学芸員に対する職業観について理解を深めることができました。

生徒研究発表会の開会行事では、現在広く活用されている光触媒の開発者の藤嶋昭東京理科大学学長が「研究は楽しい！！先人の科学者に学びつつ、身のまわりの現象をヒントに新しい科学を作っていこう」というテーマで講演しました。講演では、桜前線や空の青さなど身のまわりの自然現象のすばらしさや、マイケルファラデーなど科学に携わった多くの偉人の話を通して、研究する楽しさを伝えていただきました。

ポスター発表や口頭発表を聞き、全国のSSH校の工夫あふれる研究内容、説明の方法などレベルの高さを十分に感じ、今後の理数科の課題研究につながる研修となりました。

生徒研究発表会に参加した理数科2年生の感想

- 日本の高校の発表はもちろん素晴らしかったのですが、他には海外の学生の発表が印象に残りました。私は英語が得意ではありませんが、ドイツの生徒が丁寧に一つひとつ説明してくれたので半分ぐらい理解することができました。もっと英語の勉強を頑張り、海外の人とも交流したいと思います。
- ポスター発表では、自分の研究に必要なことやポスターの作り方、工夫の仕方など多くのことを学ぶことができ、とても良い機会となった。今回学んだことを研究グループの仲間に伝え、これからの研究に生かしていきたい。